



# 音色や質感や手触りのようなものまで 全てが同じ素材から作られたように違和感がない

これがウエルデルタだが、ステンレス板は厚さ4mm。この上板にアルミ材を被せて一体化してしまっただけのウエルデルタ・バシリスである。アルミ材は厚さ27mmの無垢材からNCで削り出したもので、

音が出方は完全に揃った高純度でエネルギーも増大

さて本機の効果である。ウエルフロート・メカについてはあらゆる機会に触れてきたが、大事なところなので一度念を押してお

きたい。私見だがインシュレーターというものは、水平垂直あらゆる方向に動いてはいけないように思う。乗せた機材の安定が取れないから、単純な空気バネや磁気浮揚が必ずしも効果的でないのはそのためである。機材の重量バランスや重心、振動モードなどによって各インシュレーターにかかる荷重は均一でなくなり、ねじれたような動きになる。これが安定性を失われ、音質を損なう原因になると考えられるのである。

これを回避するためには動作を水平ないし垂直だけに限るようにして、また機材の重心にかかわらずインシュレーター全てが同じ方向に同じ振幅で動くようにしなければならぬ。実際音質のすぐれたボードやインシュレーターは、概ねこの法則に従っているようだ。ウエルフロート・メカは強靱で、ちよつと押したくらいでは全く沈まない。耐荷重250kgだから当然だが、このため動作は専ら水平方向だけになる。垂直方向の振動があっても、水平方向に転換され

板材固有の共振モードがなくなり剛性が大幅に高まっている。また外観も著しく洗練されたスタイルに仕上がっているが、これは日産自動車で見られる中村史郎氏のデザインによるものである。仕様としては従来のウエルデルタと変わらない。ウエルフロート1個の耐荷重は250kg。4箇所なら1000kgになる計算だが、もちろん3点設置でも構わない。天面中央に穴が開いているが、これはスパイクを取めるためのもの。必要がなければ穴のないバージョンを選択することもできる。この穴も中村氏に相談のうえ、クオリティを下げないようにしたという。よほど細いスパイクでないかぎり下板まで貫通してしまうことはないだろうから、大概は穴ありで通用するのではないだろうか。

これを回避するためには動作を水平ないし垂直だけに限るようにして、また機材の重心にかかわらずインシュレーター全てが同じ方向に同じ振幅で動くようにしなければならぬ。実際音質のすぐれたボードやインシュレーターは、概ねこの法則に従っているようだ。ウエルフロート・メカは強靱で、ちよつと押したくらいでは全く沈まない。耐荷重250kgだから当然だが、このため動作は専ら水平方向だけになる。垂直方向の振動があっても、水平方向に転換され

て解消されてしまうのである。だから安定性が損なわれることはなく、機材の動作に影響を与える可能性は極めて低い。それがウエルデルタの大きな特徴である。美しく仕上がったバシリスの音は、そのデザインと同じくらいに洗練されて品位が高い。当然スピーカーを乗せているわけだが、余計な振動が排除されて純度が高くエネルギーも豊かに保存されている。そこまでは従来と同じだ。違うのは音の出方が揃っているということ。位相やスピードだけでなく、ベクトルが一致しているとも言える。あるいはモードが揃っていると言わなければならない。音色や質感や手触りのようなものまで全て同じ素材から作られたように違和感がないのである。こういう出方があるものなのか、とかえって不思議になっただけだ。

決まって揺るぎがない。だからタッチが高純度で濁りがどこにも感じられないのである。不要な振動が音を汚さないからに違いない。マドリガルを聴くと音場空間の深さが体感できる。まるでその空間の中に入り込んで行ってしまうようなリアリティが、異様なほどそこに溢れているのである。オーケストラはトウツティを大音量で鳴らしてこれほど気持ちいい経験はない。壮麗で多彩。スピーカーの性能を全開にしたような正確でダイナミックな鳴り方は、多分どんなケースでも同じはずだ。本当の音が聴こえてくる信頼感、また爽快そのものでもある。

決まって揺るぎがない。だからタッチが高純度で濁りがどこにも感じられないのである。不要な振動が音を汚さないからに違いない。マドリガルを聴くと音場空間の深さが体感できる。まるでその空間の中に入り込んで行ってしまうようなリアリティが、異様なほどそこに溢れているのである。オーケストラはトウツティを大音量で鳴らしてこれほど気持ちいい経験はない。壮麗で多彩。スピーカーの性能を全開にしたような正確でダイナミックな鳴り方は、多分どんなケースでも同じはずだ。本当の音が聴こえてくる信頼感、また爽快そのものでもある。



振り子になる上板がスタンダードモデルは4mmのステンレス板に対して、バシリスは厚さ27mmのアルミ材をNC削り出し製。メカを含め全体を上板ステンレス板に被せて一体型になっている



スタンダードモデルの「WELLDELTA (ウエルデルタ)」¥36,300 (1個/税込)  
●設計：小型ウエルフロートメカを3基搭載  
●材料：ステンレス、アルミニウム、樹脂●サイズ：幅150mm×高さ35mm●質量：610g

中村史郎氏のデザインによりアルミ削り出しボディを採用

板材固有の共振モードがなくなり剛性が大幅に高まっている。また外観も著しく洗練されたスタイルに仕上がっているが、これは日産自動車で見られる中村史郎氏のデザインによるものである。仕様としては従来のウエルデルタと変わらない。ウエルフロート1個の耐荷重は250kg。4箇所なら1000kgになる計算だが、もちろん3点設置でも構わない。天面中央に穴が開いているが、これはスパイクを取めるためのもの。必要がなければ穴のないバージョンを選択することもできる。この穴も中村氏に相談のうえ、クオリティを下げないようにしたという。よほど細いスパイクでないかぎり下板まで貫通してしまうことはないだろうから、大概は穴ありで通用するのではないだろうか。

決まって揺るぎがない。だからタッチが高純度で濁りがどこにも感じられないのである。不要な振動が音を汚さないからに違いない。マドリガルを聴くと音場空間の深さが体感できる。まるでその空間の中に入り込んで行ってしまうようなリアリティが、異様なほどそこに溢れているのである。オーケストラはトウツティを大音量で鳴らしてこれほど気持ちいい経験はない。壮麗で多彩。スピーカーの性能を全開にしたような正確でダイナミックな鳴り方は、多分どんなケースでも同じはずだ。本当の音が聴こえてくる信頼感、また爽快そのものでもある。

決まって揺るぎがない。だからタッチが高純度で濁りがどこにも感じられないのである。不要な振動が音を汚さないからに違いない。マドリガルを聴くと音場空間の深さが体感できる。まるでその空間の中に入り込んで行ってしまうようなリアリティが、異様なほどそこに溢れているのである。オーケストラはトウツティを大音量で鳴らしてこれほど気持ちいい経験はない。壮麗で多彩。スピーカーの性能を全開にしたような正確でダイナミックな鳴り方は、多分どんなケースでも同じはずだ。本当の音が聴こえてくる信頼感、また爽快そのものでもある。

決まって揺るぎがない。だからタッチが高純度で濁りがどこにも感じられないのである。不要な振動が音を汚さないからに違いない。マドリガルを聴くと音場空間の深さが体感できる。まるでその空間の中に入り込んで行ってしまうようなリアリティが、異様なほどそこに溢れているのである。オーケストラはトウツティを大音量で鳴らしてこれほど気持ちいい経験はない。壮麗で多彩。スピーカーの性能を全開にしたような正確でダイナミックな鳴り方は、多分どんなケースでも同じはずだ。本当の音が聴こえてくる信頼感、また爽快そのものでもある。

# スパイクホルダー兼インシュレーター「ウエルデルタ」の最高峰 高剛性で洗練されたハイエンドモデル “バシリス”の魅力

独自の“吊り構造式メカ”によるフローティングを実現するウエルフロート・シリーズ。同シリーズから登場新ジャンル、スパイクホルダー兼インシュレーター「WELLDELTA (ウエルデルタ)」の人気はとどまることを知らない。同メカを3基搭載したこの新アイテムは日本だけでなく海外でも高く評価され生産が追い付かないほど。そんな「ウエルデルタ」のハイエンドモデルとして「ウエルデルタ・バシリス」が登場した。上板がこれまでの4mmステンレス板に対し、厚さ27mmのアルミ材をNC削り出しにグレードアップしている。その効果は早くも認められ「オーディオアクセサリ」銘機賞2022にて見事最高栄誉の“グランプリ”の受賞を果たした。同ブランドとしても初の快挙である。その魅力を井上千岳氏が語る。

Text by 井上千岳  
Cbitake Inoue  
Photo by 田代法生



## WELLFLOAT WELLDELTA Basilis

スパイクホルダー兼インシュレーター  
穴なし=¥87,780 / 穴あり=¥93,280  
※ともに1個、税込価格  
●取り扱い：ジークレフ音響(株) TEL: 072-762-8730 ホームページ: <http://www.wellfloat.com>

